

米子西高翠会だより

第44号

令和7年(2025年)8月

編集発行

米子西高翠会

〒683-8512

米子市大谷町200

印刷所

東京印刷株式会社

会長挨拶



翠会会長
福田 一哉

日頃より米子西高校翠会の活動に対しご理解とご協力をいただき、心より感謝し御礼申し上げます。

一昨年、翠会会長に就任いたしました七十三期の福田です。本年も翠会の目的であります現役生徒のサポート、母校の向上、会員相互の親睦の促進のため誠心誠意努めさせていただきます。よろしくお願い致します。

さて、我が母校は、本年度創立百二十周年の節目の年を迎えます。その間三万二千人を超える卒業生を輩出し、郷土のみならず日本や世界の発展に寄与してきたことは大きな誇りであります。昨年度は記念事業として「西高リカちゃん」と記念名簿を作成したところ会員皆様のご協力によりともに大変盛況でした。皆様の母校愛に対し、紙面をお借りして御礼申し上げます。

そして、本年度はメインの記念事業といたしまして10月に百二十周年記念式典を開催するとともに、第二体育館に緞帳(どんちよう)を設置することを決定いたしました。近年は第一体育館が手狭なため入学式や卒業式は第二体育館で行っておりますが第二体育館には緞帳がなく生徒にとつては最大の思い出となる晴れ舞台が少し簡素に見えておりました。

緞帳の設置は学校側も強く望んでおられることでもあり、翠会としても現役生徒の喜ぶ顔が最大の母校の向上だと考え、卒業生の皆様からのご寄付を募り設置することを決定しました。皆様には続けてご無理を申しますが、クラウドファン

ディングを含むご寄付にご協力いただきますよう、心よりお願いいたします。

現役生徒におきましては、進学・部活等文武両面に大変頑張っておられ、西高らしい様々な感動を我々に与えていただいております。翠会としてもクラブ後援会を中心に、引き続き物心両面のサポートをできる限りしていきたいと考えております。皆様にもこれまで以上の応援をよろしくお願いいたします。

終わりになりますが、米子西高校翠会会員の皆様のますますのご清栄、ご活躍及び米子西高等学校の更なるご発展をご祈念し、私からのご挨拶といたします。

ご挨拶



校長
酒井 信彦

米子西高翠会の皆様には、平素より本校教育活動に対し、深いご理解と物心両面からの多大なるご支援を賜り、心から厚くお礼を申し上げます。

校長として三年目となります。酒井と申します。歴史と伝統ある米子西高等学校で勤務させていただき、この上ない喜びを感じております。引き続き、令和の時代での本校教育の更なる発展のため全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、この三年間、新年度の初めに錦町の旧米子西高校跡地にある「この地に 米子女学校 米子西高校 在りき 桜の耀(かがや)き 翠の風の なつかしや」という石碑の前に立って、諸先輩方の想いを胸に刻んでから職員会議で教育目

標を語ってきました。

今年、二〇二五年は、本校創立百二十年目の年となります。10月には翠会の皆様のご協力・ご支援により記念式典を開催します。同窓生の皆様が米子の地にお帰りの際には、ただいま紹介しました旧西高にある石碑を訪れて母校の歴史に思いを馳せていただければ幸いです。

さて、本校の現況ですが、学校教育目標を「多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な社会を創造する人材の育成を図ること」と定め、「チャレンジしてチェンジしよう」を合言葉に、教職員一同、力を合わせて生徒の進路実現に向けての支援や指導を行っているところです。学校規模は、各学年七学級二百八十名定員で、生徒数は八百十九名(男子三百三十七名、女子四百八十二名)です。男女比は概ね四対六であり、この比率は近年変わっておりません。今春の卒業生の進路状況は、卒業生二百六十七名中、四年制大学進学百九十五名(うち国公立大学進学七十二名、短期大学進学十名、専門学校進学四十九名、就職五名、その他八名という結果でした。約九五%が上級学校に進学し、国公立大学合格者は、現浪あわせて二年連続で八十名を超えるとともに、国立大学合格者も二年連続で五十名を超えています。引き続き、生徒の「なりたい」を実現するために、わかる授業や、生徒の好奇心を刺激するようなワクワクする授業を実践できるよう授業改善に努め、主体的に学ぶ姿勢を確立してまいります。

本校では、運動部、文化部はもちろん、校外での活動も含め、生徒たちが活発に活動しております。その成果の一つとして、今年度は、中国地方開催の全国総合体育大会に、女子テニス個人、女子ローイングのシングルスカル、男子体操個人、男子水泳個人、女子弓道団体が出場します。硬式野球部も悲願の甲子園出場に向けて準備しております。今夏、米西野球が花開くことを期待します。香川県開催の全国高校総合文化祭には、総合開会式、書道放送、本県開催の近畿高校総合文化祭には、吹奏楽、筆曲、合唱等の部門に出場します。

また、近年、国際交流をすすめており、昨年度オーストラリアへの語学留学(十三名)に加えて、マレーシアの大学等との交流に希望する生徒四名が参加して、新しい視点を本校に持ち帰ってく

れています。このように、生徒たちは、同窓生の皆さんが過ごした時代と変わることなく、文武併進の精神のもと、西高生活で未来に希望をもって健やかに成長する姿を見せてくれています。

中国を代表する作家の魯迅は、小説「故郷」の中で「希望」というものはもともと、いわゆる有ともいえないし、いわゆる無ともいえないものだ。それはちょうど地上の路(みち)のようなものだ、実際は地上にはもともと、路というものはなかったのを、歩く人が多くなって、そこが路になったのである。」と著しました。魯迅は「希望」を「路(みち)」に例えて表現しました。同窓生の皆さん一人一人の本校での学びが百二十年の時を刻みながら、次第に大きな道となり、その道の中で失敗を恐れずにチャレンジし、次に続く道を創っている今の西高生につながっていると確信しています。最後にになりましたが、米子西高翠会のみならずのご発展を祈念しますとともに、今後とも引き続き、変わらぬご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

関西翠会・関東翠会のご紹介

◆関西翠会(現在休会中)

会長 植田 武男
昭和62年に発足した関西翠会は、2年に1回の総会開催、会報発行、小旅行のイベント等、会員相互の親睦を深めながら38年余りの歴史を積み重ねてまいりました。関西地区における拠点として今後の活動継続に向け模索中です。

◆関東翠会

会長 上野 真
創立百二十周年を謹んでお祝い申し上げます。関東翠会も会則を策定してから57年が経ちました。私達は夢を抱いて上京される皆さんのオアシス的な存在だと思っています。

昨年度は米子工業高校と合同総会懇親会を実施しました。今後もノリと勢いとアイデアが活路を生むと信じて、みなさんと繋がっていきま



新規入会お待ちしております。

令和六年米子西高翠会総会報告



74期幹事長
赤川 紀夫

「PARIS2024」本年は華やかなオリンピックキヤーです。一方、国内では合言葉のようになり「異常気象」が叫ばれ、至る所で記録的な暑さとなりました。それでも、画面の向こうで世界に向けて闘う卒業生と、それぞれの目標に向かって真摯に取り組む在校生に励まされ、なんとかひと夏を乗り切るだけのエネルギーを受け取ったところです。

このような状況下、この度の翠会総会懇親会は四の付く期が担当として準備に入りました。事前の打ち合わせから幅広い世代の世話人に積極的に関与していただき、心強いスタートとなりました。そして時は過ぎ、ようやく秋の訪れを感じるころが、できるようになった10月12日(土)、ANAクラウンプラザホテル米子において、平成六年度翠会総会懇親会が開催されました。本年は来賓として関東翠会より会長の上野真さま、副会長の井坂優子さま並びに湯田裕子さまにお越しいただきました。

15時からの総会では、74期の友定章子さんの進行に始まり、翠会会長の福田一哉さま、現校長の酒井信彦さま、そして関東翠会会長の上野真さまよりのご挨拶により開会となりました。議事進行では議長を74期の山口明美さんとして、令和五年度事業報告及び決算報告、並びに令和六年度事業計画及び予算案、さらにクラブ後援会の令和五年度事業報告及び決算報告、並びに令和六年度事業計画及び予算案が協議のうえいづれも承認され、続いて令和七年度の役員選考と総会に関する説明を受けて、議事に関する事項は終わりとなりました。

さらに事務局より、その他の事項として百二十周年記念式典に関する日程や同窓会名簿の発行予定、また「西高リカちゃん」に関することなどの連絡をいただき総会を終えました。

16時からの記念講演会では、箏曲部在校生による演奏が披露され、現在も変わらず引き継がれる

校風と、西高ならではの風情に懐かしさを感じたところです。

続いて16時30分からは「SAKE to the World」と題し、千代むすび酒造株式会社常務取締役で94期の岡空聡さまによる記念講演が始まりました。話の冒頭から自らの不遇な(笑)幼少期の話で笑いを誘い、徐々に酒造りに至った経緯や高まつていく情熱、そして地域を盛り上げていく夢や、海外に目を向けたビジネスプランなどを熱く語っていただき、社会で奮闘する同窓生の姿に感銘を受けたところです。

18時からは94期石井美佳さんの進行により懇親会が開催され、限りある時間の中ではあるものの、それぞれが互いの近況を語り、和やかなひと時を過ごして全日程を終えることとなりました。今回の総会懇親会では、卒業生の多くがかつての錦町校舎から大谷町校舎に変わりつつ、新たな世代がより一層社会で活躍していることを改めて知ることができ、久々に同じ卒業生としての想いに包まれたところです。

最後になりますが、会の開催にあたり各方面からご協力を頂いた関係者の皆様、様々な調整をいただいた事務局の方々へ感謝申し上げます。また、日々目標に向けて取り組み続ける在校生と、さらなる飛躍に挑む卒業生、そして社会で活躍する全ての同窓生にエールを送りつつ、令和六年度翠会総会、懇親会開催のご報告とさせていただきます。



講師 岡空 聡氏(94期)

部活動紹介《全国大会出場》

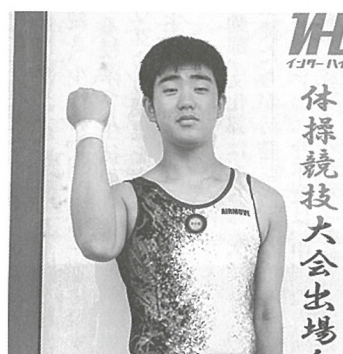
《運動部》



弓道部(団体)



テニス部(個人: 春山のぞみ)



体操部(個人: 門脇颯大)

全国大会開催予定

【全国高校総合体育大会】

- 弓道 8/1~3 鳥取県立武道館(米子市)
- テニス 8/1 福山市竹ヶ端運動公園(福山市)
- 体操 8/3~5 鳥根県立体育館(浜田市)
- ボート 8/2~5 芦田川漕艇場(福山市)
- 水泳 8/17 ひろしんビッグウェーブ(広島市)

【全国高校総合文化祭】

- 書道 7/28~29 坂出市立体育館(坂出市)
- 放送 7/21~24 第72回NHK杯全国高校放送コンテスト(東京都)
- 7/28~29 全国高校総合文化祭(香川県)



ボート部(個人: 横本 唯)



水泳部(個人: 武田和之)



書道部



放送部

《文化部》

歴代校長による周年事業での思い出



26代校長(H55.10)
相見 慎 校長

学校創立90周年記念事業に関わりました。取り組みの経過を簡単にお話させていただきます。その内容は「創立100周年記念誌」の中に「回想」として記載していますので詳しくは記念誌をお読みください。

平成5年の4月から米子西高の校長に赴任したわけですが、2年後には90周年を想定されていることから、平成5年の9月頃から準備会を学校とPTAと同窓会の3者で委員会を設立してその取り組みを始めました。本番を迎えるまでに約2年間準備期間を得て色々企画したことの実現に向けて取り組みました。創立90周年記念式典事業は平成7年11月10日に行いました。記念式典は第1体育館と第2体育館を使って行いました。第1体育館には、来賓、同窓生、PTA、旧職員、西部地区の小学校、中学校、養護 高校の校長の150名と3年生が列席し、第2体育館にはモニターを使って1、2年生が列席し、参加者数は大体1500名になりました。式典後の講演会には昭和28年に卒業され、東京大学医学部で学ばれた、当時茨城県立中央病院副院長兼県立がんセンター長の小泉澄彦さんをお招きし、講演をしていただきました。当時がんと告知するかどうかが世間の話題になっていた時代で題名は「インフォームド・コンセント(説明と同意)」であり、当時としては斬新な内容で聞き手の皆様に大変な反響がありました。記念事業としては、新しく校舎が建てられたとき、全教室でテレビを設置することができるようにと配線まではしてありましたが、普通教室30教室にビデオ付きのテレビを設置しました。今それが残っているのかわかりませんが。

2つめの事業としては記念碑の建立をしました。これは今の「ふれあいの里」の入り口にあり、黒御影石で高さ1.3メートルの碑文は



27代校長(H10.15)
石賀 廣光 校長

「この地に 米子女学校、米子西高校 在りき、桜の耀き 翠の風の なつかしや」と文人、詩人の渡部兼直先生(本校卒業生、高校国語教師)の碑文であり、加藤厚先生(当時本校教師)の揮毫です。同時に記念碑の土台に黒い石が敷き詰めてありますが、これはいわく因縁のある石でして、米子女学校の時代に正門に沿って塀を造るとき、当時の生徒の皆さんが日野川から1人2つずつぐらい持ち運んできたものです。そのとき参加した皆さんが懐かしがっておられたので、何とかして残しましょうということでした。石として残しました。それから記念誌の発行、校史展を天満屋(100周年も)で10日間くらい行いましたが、会場の監督をPTAの皆さんが積極的に協力してくださいました。当時そうした取り組みを行う学校があまりなかったように、特にOGの皆さんが喜ばれ、地元新聞にも載り、先輩の校長先生の参観の姿もありました。また、写真を中心とした記念誌や同窓会の名簿の発行をしました。以上の取り組みを90周年記念式典事業で行いました。

式典を終えて改めて大切だと思った事は、めつたに地元からきてくれることがない先輩方々と親睦を深めることができたという事です。そういうことで先輩とのつながりができたことが同窓会の事業を行う上で非常に有効であったと思っています。私が90周年事業をしたときは、過去の記念事業の記録が見当たらず、手探りでした。よって後々のために、事業の取り組みの様子を記録に残すよう配慮しました。大切なことはそういうことを記録に残すということなんです。そういう意味では10年おきに記念事業を行うことは、過去の流れを失わない、後世の人がよく分かるようにするために大切なことであると思います。

平成10年4月に校長として就任し、5年間勤めました。その間には周年行事はありませんでした。私は通算しますと21年間、米子西高校に勤務しています。その中で、昭和62年の80周年と平成7年の90周年の2回の周年行事がありました。

80周年記念事業は、森山校長先生の時代に行われました。錦町から大谷町への校舎の全面移転と同時に並行に行われました。そのため、2年遅れになりました。昭和62年10月20日に竣工式、11月18日に記念式典が挙行されました。記念式典は、昭和41年の60周年以来、実に20年ぶりのことでした。

記念事業としては、同窓会館の建設、校歌の制定、記念誌の発行等でありました。

私が関わった記念誌は「開校以来の公的な歴史を作る」という方針のもと、沿革史、部史、思い出の記等で構成されました。

資料の散失が著しく、その収集には多大な時間と労力を費やしました。

まずは、米女の交友会誌『晩翠』を集めることから始めました。『晩翠』は年に1回発行され、教育活動全般が網羅されています。初刊は明治44年で、校友会が廃止された昭和24年までに、約40冊です。米女の同窓生の方々の多大な協力により、沿革史、部史を書き下ろすのに十分な冊数と写真資料が集まりました。『晩翠』を精読して、整理する作業が続きました。

そして、明治・大正・昭和と続く激動期の米女の沿革史や部史が完成しました。

昭和24年以降の米子西高に関する沿革史は、刊行物・発行物等を収集し、教務日誌を中心に書かれました。

こうして作られた記念誌は、全950ページにも及ぶ大作となりました。

90周年記念事業については、先ほど相見校長先生から具体的なお話がありました。当時、私は教頭として在職しており、相見校長先生の卓越した識見に基づいて、緻密な計画が立てられ、事業が実施されました。

私も微力ながら少しもお役に立てるよう、右往左往しつつ東奔西走しておりました。

この90周年記念事業は、その後の周年事業の範となつていると思います。

10年毎に記念事業を行うことは、その時代の潮流や学校の教育の様子や、学校の歴史・文化を

伝える意味で、たいへん重要であると考えます。また、同窓会・PTA・学校が一体となります。一度中断してしまうと、資料は散逸し、その時代の記録を補充し、記録するために大変なエネルギーを要します。是非、継続をお願いします。



28代校長(H15.19)
塚田 安雄 校長

平成15年に境高から西高に来たことを思い出しました。4年間校長をさせてもらって3年目(平成17年)に100周年記念式典がありました。思い出といえば、募金活動にあちこち歩き回ったことが一番記憶に残っていることです。同窓会長や役員の方といろいろ回りました。女性の方の協力体制は素晴らしく、ご意見等の発言が多くリードしてくださいました。シールがたくさんありました。もちろん男性同窓役員の方にも多大な協力・貢献をしていただきました。思っていたことができなかった部分も多々ありましたが、100周年の記念誌も完成しましたし、新しい校歌の作曲をお願いした同窓(第45期)の高原文宏先生(国立音大)の講演をしていただいたりして、何とか記念すべき100周年の諸行事を成功できたと思っています。ひとつだけ残念なことは、硬式野球部が甲子園出場を逃したことです。特に平成16、17年は坂口部長、井畑監督のもと大変強力なチームで春のセンバツも夏の大会も前評判では最有力候補に挙げられていました。しかしながらいずれの大会も不運にして決定直前あたりで敗退となりました。残念至極でした。



30代校長(H22.26)
友松 文嗣 校長

私の家は錦町校舎の隣です。80周年の式典の前年まで、子どもの頃の遊び場だった旧校舎で勤務できたことは懐かしい思い出です。相見校長先生の話にありました石碑ですが、

私が校長だったときには、米女時代の方が掃除に来ておられ、一緒に掃除したり、当時の話を聞いたりしました。桜道の木は移築してあるので今も美しく咲きますが、朽ちてきたものもあります。翠会、晩翠の元といえる大きな松の木はなくなりましたが、多くの青春を見守った跡を感じます。平成16年11月1日付で西高に教頭で赴任し、真っ先にしたのが100周年記念事業に向けての募金活動です。教頭就任の挨拶を口実に当時の同窓会副会長の軽トラに同乗してあちこち回りしました。その後、米子南高校の校長を経て平成22年から4年間お世話になりました。校舎はしっかりとした構造で耐震補強工事は必要ありませんでしたが、セントラルヒーティング、屋上の貯水槽に水を運ぶポンプなど経年劣化への対応が必要になりました。大谷校舎を象徴するツツジや桜道の手入れ、大山の山小屋の扱い、豪雨による土砂崩れや水浸しになった第二体育館の補修など経年劣化にこまごま対応したことを思い出します。伝統的に文化活動に力を入れてきた校風や2000人壁画の継続など、時代が変化しても西高が西高らしくあるための道筋を模索しました。同窓会の皆さんの尽力で110周年に向けて同窓会名簿の復活ができたことは大きなことだったかなと思っています。昭和・平成に続き、120周年が近づいた令和にも非常勤講師として西高の教壇に立つ機会をいただきました。緑の深さを感じています。



31代校長(H26～29)
依藤 典篤 校長

私は、創立110周年の前年の平成26年4月に米子西高に赴任しました。

当時の翠会松本晴之会長とは米子二中の同期生で気心知れた仲であり、また、職員も同窓職員を中心に熱心に記念事業の準備を進めており、大変心強かったことを思い出します。

ただ、赴任当初は、10年前の百周年記念式典を盛大に開催したこともあってか、110周年の式典は控えめでもよいのではないかとという声もありました。しかし、過去10年を振り返

返ってまとめ、しっかりと式典を行うことが更なる米子西高の発展、繁栄につながるという考えのもと、同窓会と学校とが力を合わせて取り組むことが大切だとの共通認識に至り、米子コンベンションセンターで110周年記念式典を挙行することが決まりました。

記念式典では、書道部の書道パフォーマンス、吹奏楽部や箏曲部の記念演奏と、本校自慢の文化部の活動を披露しました。そして、記念公演は、国内外で作品展を開催され、数々の受賞歴をお持ちの人物作家安部朱美氏(61期)にお願ひし、大好評を博しました。また、式典の締めくくりには、「世界の果てまでイッテQ」で一世を風靡した「珍獣ハンター・イモトアヤコ氏(97期)」のサプライズ出演があり、生徒のみならず、参加者全員が大喜びしました。ご多忙の中、出演いただいた彼女はもとより、出演にむけてご尽力いただいた皆様方には、いくらか感謝してもしきれません。

実は私には、在職期間中に実現したい夢が二つありました。一つは甲子園球場で本校野球部を全校応援すること。

もう一つは110周年記念式典にイモトアヤコ氏を呼ぶことでした。ワタナベエンターテインメントのデスクやマネージャーとのやりとりでは苦労を重ねましたが、それだけに夢の一つが叶った瞬間は、私としてもこの上ない喜びでした。式典後、何人もの来賓、参加者の方から素晴らしい式典であったとお褒めの言葉をいただき、大変誇らしく思っています。

110周年から現在に至るまで、東京オリピックボクシング女子フエザー級で金メダルを獲得した入江聖奈さんをはじめ、部活動や地域活動等で米子西高の生徒と同窓生の皆さんの活躍を目にすることが増えており、頼もしい限りです。今後とも、生徒の皆さんには、高い志と広い視野を持って地域の発展に寄与するとともに、世界に羽ばたく人材としてのご活躍を期待しております。



32代校長(H29～R3)
富田 運一 校長

私のときは110周年があり、依藤校長先生のときでした。私は副校長でしたので、細々したところを担当いたしました。一番印象に残っているのは、依藤校長先生の執念で、「イモトアヤコさん」をお呼びできたことです。依藤校長先生が記念講演をお願いしていた人物作家の安部朱美さんには、「イモトさんが来られたら2本立てになるかもしれない、来られなかったら1本立てで」と事情を説明し、快くご承諾いただきました。安部さんのお人柄がうかがえるエピソードだと思います。イモトさんは芸能人でも、お忙しい、前日まで中国に行っておられる中、何とか来てくださいました。イモトさんとは控え室で話をさせてもらいましたが、とても控えめで礼儀正しく、やはり活躍される方は人柄も素晴らしいと感じました。イモトさんが登場の際は、吹奏楽部による「イッテQ」のテーマソングとともに、会場後方からサプライズ登場で、生徒は驚き、ステージの方に押し寄せるような講演になりました。吹奏楽部員だけにイモトさんが来ることを伝えており、吹奏楽部員は言いたくてたまらなかつたらしいですが、黙ってくれてサプライズができたかなと思っています。生徒は「西高に来て良かった」と本当に喜んでいました。式典自体も西高の良さをと、オーブニングで書道パフォーマンスを、また箏曲部にも素晴らしい演奏をしてもらいました。

私が校長のときはコロナ禍でしたので、分散登校や休校など、非常に苦しい時期ではありましたが。当時、入学式、卒業式の開催は第1体育館でしたが、保護者の方もたくさん来られることもあり、コロナ対策として、広い第2体育館で行うこととしました。元々式典を想定していないつくりのため、ステージががらんとしていました。そこで、初めての試みで、吹奏楽部をステージに上げて演奏したところ、吹奏楽部の迫力ある演奏がよく見え、好評でした。また、紅白幕も事務長さんに予算を工面していただき、第2体育館の式典らしい装いが整いました。今年120周年の記念事業で第2体育館に「ステージ用舞台幕」を設置と聞き、私自身とても嬉しく、120周年が成功裏に終わり、式典ができる良い体育館になったもえらえらと思います。大変ですが頑張っていたのだと思います。



33代校長(R3～5)
深田 直 校長

私は、米子西高に様々な立場で15年に亘って勤務しましたが、周年事業に関しては相見先生が校長としておられた90周年の時しか在籍しておられなかったので振り返りは難しいのですが、同窓会関係の皆様のご尽力により記念事業が実施され、その度に学校が豊かになり、生徒が元気になっていく姿を実感しております。また私自身が校長としての在職時には100年誌に随分お世話になりました。紙の記録を残しておくことがこれからの時代に相応しいのか怪しいところですが、私個人はページをめくっていくことに歴史の重みを感じます。貴重な史料の作成に関わられた方々に敬意を表したいと思います。

さて今回の事業の一つに「リカちゃん人形」の制作・販売があります。それについて少し記します。卒業生名簿を委託管理している会社「サルト」の企画仲介により、10数年前から全国いくつかの高校で「制服リカちゃん人形」が販売されています。令和4年頃、この人形の制作を強く推したのは、校内幹事つまり米子西高に在籍している翠会職員たちです。7000円という値段はほぼ実費で、売れても同窓会に収益は出ず、販売が1500体以下なら余りは同窓会が買い取ったというハイリスク・ローリターン企画でしたので同窓会役員の方々が即決しにくかったのは無理ありません。それでも「2000体ぐらい一瞬で売れますよ」という校内幹事たちの鼻息は荒く、それに押される形で今回の販売になりました。予定数は早い段階で完売されたようでおめでとうございます。卒業生たちの女子制服への愛着を示すものだと感じます。制服については様々な意見があり、男女別のものを生徒に押し付けることはできない時代にきています。今後も機能性を大切にしながら生徒から愛着が得られるような制服を模索していただきたいと思います。

進路状況

今春卒業生の進路先は大学進学195名、短期大学進学10名、専修学校進学27名、就職5名でした。合格者数では、国公立大学72名(過卒生を含めて82名)、学校目標を上回る結果となりました。私立大学はのべ289名、専修学校はのべ33名でした。大学別では、京都教育大、兵庫教育大、九州工業大、京都府立大などに合格し、山陰では鳥取大14名、島根大24名、公立鳥取環境大4名、島根県立大5名でした。

昨春同様、総合型選抜・学校推薦型選抜での合格が多く、国公立大学だけでも36名でした。多くが「みらいチャレンジ活動」などの本校での探究的な学びによく取り組み、そこで得た学びへの意欲や活動成果が合格につながったと考えます。

右記の受験者の中には、同じタイプの入試を受けて合格した西高卒業生からアドバイスを受けて受験に臨んだ生徒もありました。上級学校の教職員の方から卒業生が勉学に勤しんで成果を上げたというお話を聞くこともよくあります。諸先輩方に本校の進路指導が支えられている面があることに気づかれます。御支援・御声援に感謝申し上げますとともに、今年度も本校進路指導の諸活動への御理解・御協力をお願いします。

令和6年度 合格者数(延べ人数)

大学			短大		専修学校		合 計
国 立	公 立	私 立	国 公 立	私 立	看 護 医 療	そ の 他	
令和7年3月卒業生							
47	25	289	2	11	21	12	407
令和6年3月以前卒業生							
4	6	18	1	1	0	0	30
合　　計							
51	31	307	3	12	21	12	437

クラブ後援会報告とおねがい

翠会会員の皆様には、平素より格別のご協力とご支援を賜りありがとうございます。

毎年会員の皆様からご寄付をいただき感謝申し上げます。

浄財は、主に生徒の派遣費、部活動補助に出資させていただいておりますが、体育系、文化系とも全国大会、中国大会等への出場も増加しており、その活躍はめざましいものがあります。本校クラブ活動の発展のため変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

本会の会計につきまして下記のとおり報告します。

令和7年度も中国・全国大会へ出場する部活動への補助を行っています。

令和6年度 クラブ後援会収支決算書

(収入の部)

一般会費	3,915,900円	4,800円/生徒一人当たり
同窓会員寄付金	417,000円	一般会員(379,000円)、卒業生(36,000円)
繰越金	3,210,936円	令和5年度繰越金
雑収入	2,722円	預金利息
合計	7,546,558円	…①

(支出の部)

会務費	302,048円	同窓会報郵送料(クラブ後援会負担分)他
遠征補助費	1,996,271円	遠征費補助(中国大会以上)
部活動補助費	459,649円	製氷機借上、部活動特別補助
合計	2,757,968円	…②
令和7年度繰越金(①-②)=4,788,590円		

令和7年度繰越金	4,788,590円
基金会計	3,578,281円
保有金額	8,366,871円

令和6年度翠会会計決算書

自 令和6年4月1日
至 令和7年3月31日

(単位: 円)

収入の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	5,373,693	5,378,693	5,000	
入会金	1,355,000	1,350,000	△5,000	5,000円×271名
預金利息	7	2,745	2,738	
協力金	1,000,000	931,328	△68,672	
雑収入	300,000	2,433,290	2,133,290	会報発送費補助、名簿、名簿協賛金
繰入金	0	0	0	
合計	8,028,700	10,096,056	2,067,356	

支出の部

項目	予算額	決算額	増減	備考
会議費	300,000	273,975	△26,025	総会会場費等
会報発行費	2,500,000	2,274,290	△225,710	翠会だより印刷、会報発送費
旅費	250,000	0	△250,000	
慶弔費	200,000	0	△200,000	
事務費	300,000	200,674	△99,326	事務代行代、通信費、払込手数料等、ホームページサーバー料
予備費	4,478,700	2,216,000	△2,262,700	入会金返金、広告代金
合計	8,028,700	4,964,939	△3,063,761	

積立金

(定期預金内訳)

1,024,470	山陰合同銀行
1,108,000	ゆうちょ銀行
2,001,885	米子信用金庫
101,754	米子信用金庫

総収入	10,096,056円
総支出	4,964,939円
差額	5,131,117円 (令和7年度に繰り越し)

同窓会員寄付金領収書については、平成16年度総会において、経費節減のため送付しないことが決議されています。ご理解のほどよろしくお願いします。

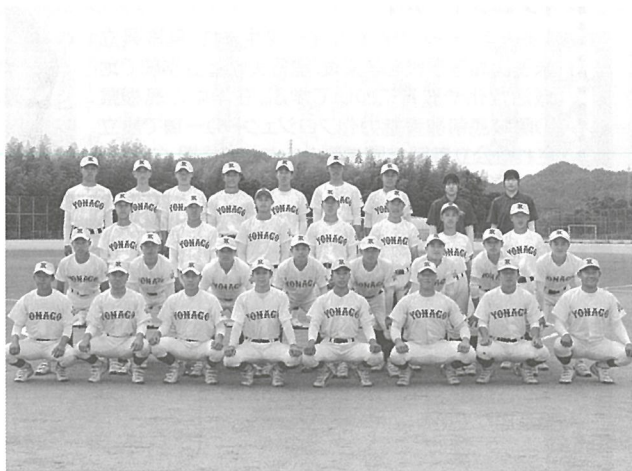
第107回全国高等学校野球選手権鳥取大会へ向けて

同窓会の皆様には日頃より温かいご支援、ご声援、多大なるご寄付をいただき感謝申し上げます。

硬式野球部は3年生9名、2年生12名、1年生11名の32名の部員と岩崎(部長)、坂口(監督)、田中(コーチ)、川下(顧問)の4名の教員で活動をしています。

さて、今大会は米子市の「どらやきドラマチックパーク米子市民球場」で開催されます。スコアボード、スタンドなどが改修されきれいな球場に生まれ変わりました。

本校の初戦は日野高校と対戦し、順調に勝ち進めば7月28日(月)に決勝戦を迎えます。日頃の練習の成果を発揮し、最後まで諦めずに戦って参ります。今後ともご支援ご声援をお願いします。



59期の皆様より温かいご寄付をいただきました。心より御礼申し上げます。

鳥取県立米子西高等学校は、本年 創立120周年を迎えます

記念事業 ～翠会より第二体育館ステージ用舞台幕を寄贈～

創立120周年という記念すべき年に、翠会(同窓会)では「第二体育館ステージ用舞台幕の寄贈」を記念事業のひとつとして決定いたしました。この舞台幕は、世代を超えて多くの生徒が舞台に立ち、仲間と学び、表現し、成長していく場を象徴するものです。翠会としても、母校に恩返し気持ちを込めて未来の西高生たちに誇れる環境を残したいと考えました。つきましては第二体育館ステージ用舞台幕製作(11月末完成予定)のための資金につきまして募金の協力をお願い申し上げます。

募金に当たっては、以下の方法があります。

御協力のほどよろしくお願いいたします。

1 芳名録による寄附

翠会の役員を中心に芳名録による募金活動を行っております。
税の優遇が受けられる特定寄附に認められておりますので、希望される方は寄附の際にお申し出ください。
※特定寄附募集期間 令和7年8月1日～令和8年3月31日

2 クラウドファンディングによる寄附

クラウドファンディングによる寄附の開始は8月中旬を予定しております、
詳細が決まり次第、翠会ホームページで御案内いたします。



翠会HP



※写真は完成イメージです。

◆創立120周年記念名簿の発刊
(価格4,300円)

◆「オリジナル制服リカちゃん」

◆写真展の開催／実重かおり氏(100期)
(令和7年1月より5月まで、コモンホールにて開催)



記念式典 令和7年10月15日(水) 於: 米子コンベンションセンター
祝賀会 令和7年10月15日(水) 於: ANAクラウンプラザホテル米子
(第17回「翠燦く」と同時開催します。詳しくはHPをご覧ください。)

我校は、同窓の皆様のご支援・ご協力に支えられ、120周年という節目を迎えることが出来ました。
今後の記念式典、記念行事の成功のためにも、物心両面にわたるご支援・ご厚志を賜りたく存じます。

米子西高翠会総会懇親会のご案内

- 日時 令和7年10月18日(土) 15時～
- 会場 米子ワシントンホテルプラザ
- 日程
 - ・受付 14時半～
 - ・総会 15時～16時
 - ・記念演奏 16時～16時20分(吹奏楽部)
 - ・記念講演 16時30分～17時40分
 - ・講師 長谷川 大介 氏(105期)
株式会社ガイアックス
起業家教育事業講師
 - ・演題 「わたしたちは教育にどのように関わ
るのか」
— 教育魅力化・探究・起業家教育の
交差点から見えたもの —
 - ・懇親会 18時～20時
- 会費 7,000円(懇親会参加希望の方)

※担当幹事55・65・75・85・95・105期(昭和37・47・57・67・平成14・24年卒業)

【プロフィール】

- ・1994年、鳥取県米子市淀江町生まれ。鳥取県立米子西高等学校を卒業後、龍谷大学社会学部で地域活性化や教育について学ぶ。在学中に鳥根県の陽岐島前教育魅力化プロジェクトの一環で設立された公立塾陽岐国学習センターで長期インターンし、そのまま就職。その後、鳥取県立日野高等学校で学校・地域・行政をつなぐコーディネーターとして探究活動や県外留学などを推進。その後、認定NPO法人カタリバで全国高校生マイプロジェクトの運営に携わり、現在は株式会社ガイアックスに所属し、全国の子どもたちに起業家教育を届けている。



開催の内容を変更させていただく場合は、西高及び翠会のホームページで連絡しますので、ご確認願います。



西高HP